（別紙２）

※事例①、②のいずれのパターンも作成ください。

ケース事例

事例①

性別　男児

年齢　６歳８か月　小学１年生　普通学級

診断名　自閉症スペクトラム、ＡＤＨＤ、平均下精神発達

成育歴　普通分娩により出生。３歳で幼稚園に入り、３歳児健診で発達のアンバランスさを指摘され、児童福祉センター発達相談課から療育を勧められたが、両親は療育を希望せず、利用にはつながらなかった。４歳になり幼稚園の行き渋りや通園バスから降りないことが続き、通い続けられなくなる。途中で保育園に転園し、しばらくは、自分のクラスに入ることができず、弟のクラスに自分から行っていた。４歳７か月から療育（児童発達支援）にも通うようになり卒園まで週１回利用する。就学は地域の小学校の普通学級に通い、入学後すぐに、放課後等デイサービスの利用を開始した。

家族構成　父、母、姉（小学４年生)、弟（３歳児）と本児の５人家族

家族状況　両親で飲食店を営んでおり、毎日忙しい生活を送っている。父親は本児の発達障害についての理解がない上、本児のしつけには厳しく、注意・叱責することが多い。本児は姉とのけんかも多い。

他機関の利用　児童福祉センター診療療育課で診断を受け、発達検査は療育利用のために発達相談課で受検。放課後等デイサービスは１か所を利用し、15 日の支給量。その他は、障害児相談支援、児童館の学童保育を利用している。

利用の状況　就学後、学校と家庭以外で通えるところを作りたい。学校でがんばっているので、のびのび発散して遊べるところが欲しい。現在週２回の利用、今後回数は増やしていきたい。

日常生活の技能
- 食事　お箸を使用しているが手先の不器用さがあり、好きなものは手づかみになることもある。偏食があり、特に初めてのものには手を付けない。
- 着脱　着脱は自立しているが、取り掛かるまでに時間がかかる。
- 排泄　自分でトイレに行く

健康状態　元気で休むことは少ない。聴覚過敏があり、騒がしい場所が苦手。味覚や感触にも過敏さがあり、偏食や衣類にもこだわりがある。

運動機能　走り回ることや身体を動かすことが好き。特にトランポリンが好きで繰り返し跳んでいる。ポニースイング（吊り遊具）の激しい揺れは楽しむが、自分で漕ぐことやバランスよく乗り続けることが難しい。椅子に座り続けることが苦手で、すぐに離席してうろうろしてしまう。

言語理解　大人の指示や友達との会話などは理解しているが、やりたくないことや聞きたくないときには聞こえてないように振る舞うことがある。特に危ない行動に発展しそうな時の禁止の言葉掛けには、逆に行動がエスカレートしてしまうこともある。

言語表出　　学校では、「うるさい」「あっちへいけ」等と友だちに言ってしまい、周りに怖がられたり、自分の話を聞いてもらえるまでしつこく言い続けることがある。放デイでも同じような言動がある。学校では、「イヤなことがあったら具体的に言いなさい」と指導しているが、改善が難しい。語彙数はあるが、自分の気持ちを言葉で伝えることが苦手で、子ども同士の会話では、言われたことに反応して言い合いになることが多い。

好きな遊び　　目的がはっきりとわかる製作や仕組みが理解できてイメージが共有できる遊びは意欲的に取り組む。自分から遊びを見つけることが難しく、大人からうまく誘ってもらうと活動に参加できて楽しめる。

対人関係　　大人との関係では、すぐに要求が通らないときに持っているおもちゃを投げたり、わざと近くにいる友だちのおもちゃを取り上げて大人の注目を引こうとすることがある。子ども同士では、自分のペースで遊んでしまうので、トラブルになることが多い。

集団参加　　学校では椅子に座って授業を聞いているが、積極的に手をあげた時に、あててもらえない時には暴言を吐くなどする。児童館では上級生の遊びに興味を持ちよく見ている。自分もコマが好きになり糸を巻く練習を繰り返し、回せるようになった。放デイでは、目的がはっきりとわかり手順も理解できるクッキングなどに取り組んでいる。

発達評価　　新版Ｋ式発達検査 2020（６歳７か月時に発達相談課で実施）

	発達年齢	発達指数
姿勢・運動	―	―
認知・適応	６歳１か月	９２
言語・社会	６歳５か月	９７
全領域	６歳３か月	９５

＜所見＞

認知面：教示を聞いて意図を理解し、課題にこたえることができる。見本を見て同じものを作る課題、図形模写（菱形まで）、視覚的・継時的な記憶の課題等すべての項目で年齢相応の力を発揮している。

言語面：聴覚的な記憶、数の概念理解、了解問題、知識面（硬貨の名称、日時、左右）に適切に答えることができているが、語の定義を答える課題では、目の前に実物があると「これ」「こんなもの」と答えてそれ以上説明しようとしなかったり、必要最小限の言葉で答える。

総　合：認知・適応領域、言語・社会領域、全領域ともに平均発達を示しており、項目間、領域間の偏りはない。しかし、思いついたことをすぐにやりたい、自分主導でやりたい思いが強い。また、とても繊細なところがあり、大人の意図を敏感に読み取り、どこまで受け入れてもらえるかということを推し量りながらやりとりしているところがある。特に”～させよう”とする意図に対しては抵抗が強くなりやすいので、本人のことを信頼して待ち、自分からやり始めて、自分でできたと感じられるようにすることが必要。

事例②

性別　　女児

年齢　　９歳３か月　小学３年生　特別支援学級

診断名　　ダウン症候群、中度精神発達遅滞

成育歴　　出生後にダウン症の診断を受け、１歳児から児童発達支援センター（週３回の親子通園）に通い始めた。２歳児から保育園に入園し、以降は卒園まで週１回の療育を利用。地域の小学校の特別支援学級に就学し、以降は放課後等デイサービスを利用している。

家族構成　　父、母、兄（中学２年生）と本児の４人家族

家族状況　　両親ともに本児の障害を理解し、家庭においても本児の成長を温かく見守っている。兄が中学１年生から不登校になり、母親は本児より兄の方を心配する状況が続いている。兄のことで学校とのやり取りが増え、母親が以前より忙しくなり、また、その対応等で両親の意見が合わず、母親が悩んでおり、その影響を受けてか、本児も少し不安定な様子が見られる。

他機関利用　　療育手帳の更新や特別児童扶養手当の受給手続きのために児童福祉センター発達相談課で定期的に発達検査を受けている。放課後等デイサービスは２か所を利用し、15 日の支給量。障害児相談支援も利用している。

利用の状況　　放課後等デイサービスを２か所、週３回利用している。

日常生活の技能　・食事　手先の不器用さがあり、スプーンを使用している。好き嫌いはなく食べ過ぎになる傾向があり、量については調節している。おやつについても制限している。

・着脱　着脱は自立しているが、前後を間違えることが多い。

・排泄　自分でトイレに行くが、遊びに集中していて、失敗することが時々ある。

健康状態　　心臓疾患があったが手術を終え、完治している。運動に制限はないが、肥満傾向で、動くことが苦手。

運動機能　　ブランコに乗ることやトランポリンなど遊具で遊ぶことは好きだが、散歩などの持久力を求められる活動は苦手で、行きたがらない。

言語理解　　あいさつや日常的に使う言葉、「ご飯を食べよう」「片付けをしよう」など生活の中での言葉掛けは理解している。「座る」「書く」など用途を示す言葉もわかっている。活動の説明や全体指示の理解は難しく、モデルを見せて、個別に対応する必要がある。

言語表出　　よく聞かれる言葉はまだ数語だが、要求はジェスチャーで伝えようとしている。年齢は指で教えてくれる。

好きな遊び　　簡単なパズルや描画が好きで、〇の内外に目や鼻、口、髪の毛などを描くのが好き。折り紙も大人と一緒に折ることを楽しむことができる。

対人関係　　大人とのコミュニケーションは良好で、本児のやりたいことであれば、誰とでも一緒に楽しむことができる。しかし、行動を止められたり、やりたいことができないときには、自分の思いを通そうと座り込んでしまい、動こうとしない。

集団参加　　学校では特別支援学級で本児の発達課題に合わせた学習に取り組んでいる。放課後等デイサービスでは、動くことが苦手な本児が楽しく身体を動かせる運動や遊びを取り入れた活動をしている。

留意事項　　特別支援学級にはダウン症の子どもが他にいないため、母は同じ障害をもつ子どもの保護者との交流や情報交換の機会を求めている。

発達評価　　新版Ｋ式発達検査 2020（５歳８か月時に発達相談課で実施）

	発達年齢	発達指数
姿勢・運動	―	―
認知・適応	３歳２か月	５６
言語・社会	１歳９か月	３１
全領域	２歳６か月	４４

＜所見＞

認知面：積木の塔の課題では、一度倒れても気持ちが途切れることなくやり直し、２回目は１回目よりも慎重に積もうとする姿があった。見本を見て同じものを作る課題でも、見本を見ながら試行錯誤して完成させようとしていた。

言語面：絵の名称を答える課題では、すべてをジェスチャーでこたえていた。表現手段としてジェスチャーが身についてきており、伝え方を工夫していた。表出言語としては出ていなくても経験によって理解している言葉は多い。